

# 産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例 (H29~30年度: 計画作成主体: 北見市農業再生協議会 (北海道))

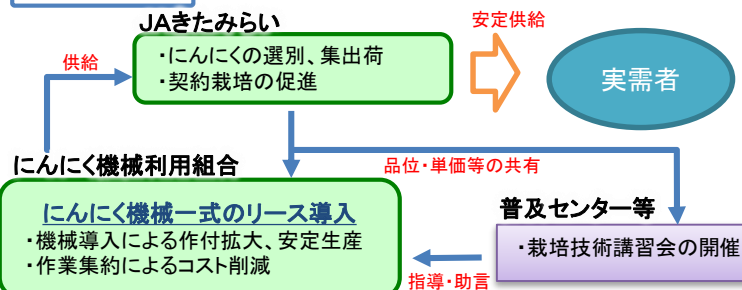
## 取組の概要

- 対象品目 : にんにく (産地面積: 11.33ha)  
 主な取組主体 : にんにく機械利用組合、農業者37名  
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加(10aあたり)  
 基準 (H27年度) 142,812円/10a  
 目標 (R01年度) 316,484円/10a  
 導入施設等 : 生産支援事業 (機械リース)  
 ・マルチロータリー 4台  
 ・植付機 4台  
 ・収穫機 4台  
 ・茎葉処理機 3台  
 ・マルチ巻取機 2台



北海道  
きたみらい地区  
(北見市・訓子府町・置戸町)

## 産地体制



## 地域における独自の取組

### 〈主な取組〉

〇きたみらい農業協同組合野菜振興会・農業改良普及センター等の連携により作成している、にんにく栽培資料を基に、適宜、技術講習会の開催と技術指導を実施。

## ポイント

### 【産地の課題及び取組方向】

昨今、消費者の安全安心に対する意識や健康志向が強まっているが、植付から収穫作業まで大部分を手作業で行っており、高まる国内産にんにくへの需要に応えることができていない。

主要機械を導入し、これまで個人で行っていた作業を集約することで、効率的な共同運営体制を構築し、販売額の増加及びにんにく産地としての確立を図る。



### 【産地の体質強化に向けた方策】

にんにく生産に必要な主要機械のリース導入

## 取組成果

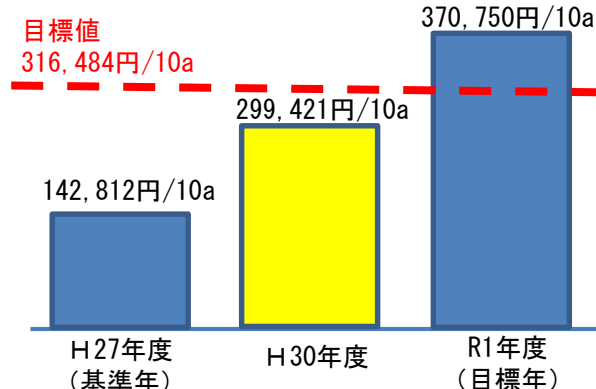
### 【事業実施による直接効果】

- ①リース支援による初期投資の節減効果
- ②作業集約化によるコスト節減効果

### 【事業実施による間接効果】

- ①にんにく作付面積が拡大し、生産量が増加
- ②安定生産・供給により産地競争力が強化

10aあたりの販売額が  
259.6%増加  
(達成率131.2%)



※H30年度へ繰越をしたため、H29年度は実績なし